

1. 評価結果概要表

作成日 2007年11月19日

【評価実施概要】

事業所番号	2670600416
法人名	ヤマト株式会社
事業所名	ヤマト株式会社ニングルの森北白川
所在地	京都市左京区浄土寺石橋町69 (電 話) 075-762-0920

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成19年10月31日	評価確定日	平成20年1月31日

【情報提供票より】(平成19年10月31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 11 月 20 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 4.3 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	地階1階地上3階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(60,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 270 円 夕食 700 円 または1日当たり 1.670 円	昼食 500 円 おやつ 200 円	

(4)利用者の概要(10月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.5 歳	最低 75 歳	最高 91 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 テイ医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大文字山の麓で、銀閣寺が近く哲学の道沿いという観光地にあるグループホームです。屋上からは遠くの山々が見渡せ、窓を開けると季節感が味わえます。入居者は四季折々の風景を楽しみながらのんびりと生活されています。元が社員寮ということもあり、ホーム内は段差が多くありますが、生活するだけで身体機能が維持向上されています。職員は、入居者の持つ可能性を広げたいと側面からの援助に徹しています。グループホームの特性を活かし、入居者本位のケアが提供されています。入居者のペースを尊重しながら、その時々ニーズに対応することができ、一人ひとりの満足度を満たされています。職員間では話し合いを重ねながら、より良いケアを目指されています。職員の異動も少なく、継続的なケアが提供され、高齢者にとっては安心感につながっています。地域との関係も良好であり、近所の方々からの理解も得られ温かい援助もあります。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価で話し合った、地域との連携を図るということでは、ホームからの積極的な働きかけで双方の交流が深まり、良好な関係が築かれつつあります。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は管理者を中心に、職員全員で取り組み、日常を振り返る機会になり、会議でも話し合い、改善に前向きに取り組まれました。家族にも結果を報告し、ホームの取り組み状況を知ってもらうきっかけができました。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に一度、地域包括支援センターの職員と、家族が参加する運営推進会議を開催し、ホームからの報告や、双方の意見交換の場となっています。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 玄関に意見箱を設置しています。家族との集いもあり、気軽に意見を言ってもらえるように常に話しています。意見や苦情にはすぐに対応し、現場での対応が難しい場合は、法人の会議で取り上げて対処しています。第三者の相談機関についても説明しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に参加し、町内では組長を努めています。地域の行事である地蔵盆や運動会に参加するだけでなく、職員が準備や後片付けを手伝い地域に協力しています。隣近所とは顔なじみで親しくしていただいて、良好な関係ができています。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自然・地域と統合した人間として幸せな生活」を表題に、それを具体化した理念が掲げられている。入居者を第一に考えたケアを目指し、幸せに過ごしていただきたいと考えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、ホームの玄関やリビングに掲示されている。日々のケアで実践できるように、個人の記録ファイルにもはさまれている。会議の中でも理念を基にしてケアのあり方を話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加し、町内では組長を努めている。地域の行事である地蔵盆や運動会に参加するだけでなく、職員が準備や後片付けを手伝っている。隣近所とは顔なじみで親しくしていただいている。	○	徐々に地域との関係が深まりつつあるが、地域の方にホームにも来てもらえるような働きかけも期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者を中心に、職員全員で取り組み、日常を振り返る機会になった。会議でも話し合い、改善に前向きに取り組んでいる。家族にも結果を報告し、ホームの取り組み状況を知ってもらった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、地域包括支援センターの職員と、家族が参加する運営推進会議を開催している。ホームからの報告や、双方の意見交換の場となっている。また、会議開催時には全家族に案内を送付し、確認等を行っている。	○	民生委員や行政、自治会からも参加してもらえるよう働きかけをし、様々な意見交換ができる会議になるような取り組みを期待する。

グループホームニングルの森北白川

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政には、入居者と一緒に訪問している。担当の職員とは顔なじみで、アドバイスをもらったり、相談もできる関係がある。成年後見制度についても双方で取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の日々の暮らしぶりや健康状態などは、個々に写真入の手紙を作成し、毎月送付している。家族の訪問時には会話を多く持つようにし、個人別の写真アルバムを見ていただいたりしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。家族会もあり、気軽に意見を言ってもらえるように常に話している。意見や苦情にはすぐに対応し、現場での対応が難しい場合は、法人の会議で取り上げて対処している。第三者の相談機関についても説明している。	○	更に家族の思いや考えを把握するために、年に1～2回ぐらいの割合で、アンケートを実施してはどうでしょうか。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代は少なく、いつも同じ顔ぶれでケアしている。新人職員が配属された場合でも、すぐに馴染めるような雰囲気作りをしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時は現場で働きながらの研修が第一と考えている。外部研修は、順次参加できるように促している。受講した研修には必ず報告書を提出し、資料とともに職員間で回覧している。	○	今後は、ケアの方法や技術、理論等を更に勉強できるように、大まかな年間計画をたてられてはどうでしょうか。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとは親しくしていて、交流を深めながら意見交換している。地域包括支援センターとは、毎月の行事に参加させてもらったり、アドバイスをもらったりの関係ができています。他の事業所とも、見学に行ったり、来てもらったりしながらお互いの質の向上に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学では、入居者同士でリビングで過ごしてもらい様子を見ている。体験利用も可能で、入居後も、ホームに馴染めるようになるまで、週末は家族の元へ帰宅してもらったりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自然な流れのもと、一緒に家事をしたり、共に過ごす事で、新たな気付きがあったり、泣いたり笑ったりしながら過ごしている。職員は自らが楽しい雰囲気を作ること、入居者に楽しんでもらえるように配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から引き出した思いや、家族から聞いたこと等、日常の中で把握できたことを、会議等で話し合い、共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	センター方式を活用して情報を収集し、入居者が自分らしく生活できるようにと考えて介護計画を作成している。センター方式のアセスメントが今以上にケアプランに反映できるように取り組んでいきたいと考えている。カンファレンスでは、職員間の意見や気付きを出し合い、計画につなげている。医療的な意見もと入れれている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本は3ヵ月ごとに、状態が変わった場合にはその都度、見直している。職員一人ひとりの意見や家族の思いをとり入れ、見直しの度に家族に説明し同意をもらっている。		

グループホームニングルの森北白川

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一時的な体験利用ができたり、介護相談の窓口の役目をはたしたり、ホームでできることや職員ができることには、積極的に対応したいと考えている。福祉の勉強の為の見学は自由に来てもらっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一度往診があり、夜間の緊急時対応も可能である。歯科医は隣にあることから、すぐに対応してもらえ、歯科衛生士から口腔ケアの指導もある。眼科や耳鼻科も近所にあり、通院がしやすい。以前からの主治医とも連携している。医療連携加算として、週に一度看護師の訪問がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人としての看取り指針を作成している。主治医や看護師との連携や協力も確認できている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	基本は、年上の方に対する言葉使いや接し方をしているが、状況に応じて個別に対応したり、その人に合ったコミュニケーション方法をとっている。個人の記録物は漏洩のないように事務所の書庫に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の一日の流れはあるが、その方のペースに合わせて臨機応変に対応している。就寝時間や起床時間は自由であり、そのために食事時間がずれても大丈夫である。		

グループホームニングルの森北白川

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から調理、後片付けまで、入居者と一緒に行っている。季節の食材を採り入れたり、食事が楽しいものとなるよう配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に二～三回であるが、希望にあわせて支援している。午前でも午後でも入りたい時に入浴してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの趣味や得意なこと等、好きなことをしてもらえるように支援している。リネンの交換時には、一緒に自分の居室を掃除してもらっている。必ず記録にも残すようにして、介護計画に活かしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームが哲学の道沿いにあり散歩には最適である。他にも喫茶店へ行ったり、買い物へ行ったりと、気候に合わせて毎日外出している。自動販売機でジュースを買うことが日課になっている方もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	観光地で、人の往来が多い場所に立地するため、防犯の意味において施錠している。玄関に近づくセンサーで音が出るので、外出傾向が把握でき、鍵を開けて外へ出かけてもらえるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との協力で、入居者、職員全員参加の避難訓練を実施し、経路や手順を確認し合った。今後は年に二回行うことと、夜間を想定しての訓練を行う予定である。		

グループホームニングルの森北白川

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が、栄養バランスやカロリーを考えた献立を立てているが、好みに合わせて献立を変更できる。一人ひとりの食事、水分摂取量は把握して記録に残している。状態に合わせて、キザミにしたりお粥にしたりの対応もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良いリビングでは、それぞれのお気に入りの居場所があり、各居室からも窓を開けると、四季の移り変わりを感ずることができる。地下のコミュニティホールにはピアノが置いてあり、音楽を楽しむスペースとしても使われている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具や、好みの装飾品が置いてあったり、自分の家という感じが出るように、家族には、テレビを持ってきてもらうようお願いしている。		